

## ともに育ち 学びあう活動—実践編

委員会をはじめ、年間を通して活動する組合員を“むすび”ます。活動の紹介、情報発信の場をめざします！

### ～新しい生活様式でつながる委員会活動～ 「エリア協議会」の開催について

新型コロナウイルス感染症は、組合員活動や事業に大きな影響を及ぼしています。4月に出された緊急事態宣言が解除されたとはいっても、「3密」をつくらないなどの「新しい生活様式」にのっとった行動を継続していくことが必要です。今回は2カ所のエリア協議会を取材しながら、「エリア協議会」の開催についての注意点などを、考えてみました。



#### ■ 再開後のエリア協議会

8月より、エリア運営会議、エリア協議会が再開されました。再開にあたってのガイドラインについては『むすび』8月号（p10）でお知らせしています。

#### 会議運営についてのガイドラインは――

- 会議は、2時間以内におさまるようにしましょう。
- 会場の設営では、席の配置はできるだけ2m（最低1m）の間隔をあけてください。常時換気を基本としますが、難しい場合は1時間ごとの換気をお願いします。
- 飲み物は、各自での用意をお願いします。
- 昼食（お弁当）の用意はありません。
- 参加人数は、会場の定員の半分以下を基準とします。
- 傍聴については、参加人数に余裕がある場合に限り可能とします。



ウィズコロナでの会議の必需品は消毒液と体温計

- マスクはご自身で用意してください。会場ではマスクの着用をお願いします。
- 手指の消毒は、受付に消毒液を用意しました。消毒液が使えない方は、手洗いをお願いします。
- 体調の管理をお願いします。発熱、咳、喉の痛み、味覚障害などで体調に不安がある場合の出席はご遠慮ください。受付時に咳・喉の痛みの有無など、体温チェックシートに記入してからご入場ください。
- ご自宅で体温を測ってから来てください。受付時にも体温を測ります。37.5℃以上もしくは平熱より1℃以上高い場合は、出席をご遠慮ください。

外出が不安な方は、オンラインでもエリア協議会に参加することができるようになりました。

#### ■江戸川・墨田エリア協議会（10月8日開催）

会場：タワーホール船堀にて

全26委員会中、会場参加11名、オンライン会議参加13名で開催。出席した松野理事長が、「元気にお会いできてよかったです。リモートの運営もみんなで知恵を出し合って進化させましょう」と挨拶。各委員会から、定例会の方法や今後の企画について報告があり、「再開した定例会で次回企画の話をしたが



1時間半があつ  
という間で、充  
実した時間が過  
ごせた」の声が  
ありました。

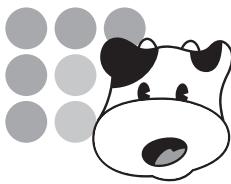
#### ■たま東エリア協議会（10月9日開催）

会場：府中市市民活動センター プラットにて

全26委員会中、会場参加20名、オンライン会議参加5名で開催。会場には杉原専務理事が出席し、「7月までは活動を停止せざるを得ませんでしたが、徐々に内部企画なども始まり、お互い協力し合いながら進めていきましょう」と挨拶。委員会からの報告では、「委員会活動が心の支えになっていたと実感」、「時



間があるこのとき、  
知識を高めるいい  
機会ととらえてい  
る」の声が聞かれ  
ました。



# 新委員会を紹介します！

## Stepみなど子育て委員会

城南しおみエリア 子育て分野別委員会

3年前、サークル活動のメンバー募集企画で、同じテーブルに座った3名と、そのママ友つながりで立ち上がり、パルシステム商品の試食会や石けんの勉強会、フェイスストレッチなど、サークルとして精力的に活動してきました。その様子を知る複数の職員から、「委員会になってみては」とお説きがあり、メンバーと話し合って、10月に委員会として登録しました。

「メンバーは0歳児から幼稚園児のママが中心。コロナに感染しないよう、色々な情報交換の場として楽しく活動していきたいですね」と委員長は話してくれました。

(10月19日取材)



せっかく立ち上げたばかりなのに、コロナのため集まれず残念。下期の企画を楽しく考えました

## 暮らしの学校委員会

渋・目・世エリア くらし分野別委員会

消費者展の実行委員として知り合った方や、長年一緒に活動し、共鳴した方と一緒に活動した委員会です。9月までは活動自粛期間となりましたが、多方面に活動の場を持っているメンバーが多く、各々の自粛期間を過ごしていたとのことです。

「協議会報告やさまざまな報告を受けながら、気が付いたことを、メンバーでしっかりと話し合うことが重要です」と委員長は話します。「身近にある疑問や問題など、みんなの知識を持ち寄って、いろいろな視点で考え方行動していかれたらいいですね」とも話します。学び伝える活動をめざしています。

(10月27日取材)



協議会の報告にまつわる話が発展しながら意見交換され、話がより深まります

2020年度172委員会で始まったパルシステム東京の委員会活動。新型コロナウイルス感染拡大の影響で、自粛していた委員会活動ですが、新たに1委員会が加わり173委員会で再開。4つの新委員会を紹介します！

## いやしのたんぽぽ委員会

大江戸エリア 福祉分野別委員会

福祉の分野別委員会がないエリアのため、幅広い意味での福祉を考える委員会をと、仲間に声をかけ立ち上げました。「福祉」というと、高齢者や介護などにスポットが当たりがちですが、私たちが暮らしていく中で感じる“生きづらさ”的な原因を掘り下げながら、みんなが安心して暮らすために、自分たちに何ができるか委員会活動を通して考え、企画を通して伝えていければと思っていました」と委員長は話します。

取材した定例会では、エリア協議会報告の後、ミニ読書会を開催。委員長の心に残った本の一部をメンバーと共有しました。さまざまな考え方があることを確認しました。

(10月23日取材)



「知ることで誰かの助けになれると思う」「集まって話をすることって大事だと実感している」の声が

## 神楽坂デザイン委員会

城北さくらエリア くらし分野別委員会

他の地域から参加された方にも活動に加わってほしいと委員会関係や、職場の仲間に声をかけて立ち上げました。「パルシステム商品について学び広めることや、くらしの中のさまざまな事柄について知識を深め、学んでいきたいと思っています」と話す委員長。

立ち上げてすぐの自粛に戸惑いましたが、エリアコーディネーターのサポートに助けられ、順調に進めていくことができました。委員会名の「デザイン」は委員の発案。「活動を通じて委員や企画参加者の暮らし豊かになるよう、食・心・健康・くらしを意識して楽しく活動していきたい」との思いでつけたとのことです。

(10月19日取材)



10月の定例会は会場の都合でチャットを使ったリモート会議に。(イラストはイメージです)